



メディア研究部門年次報告2007 : CALL・ハブ室・スタジオを中心とした外国語学習支援環境の整備

加藤, 雅之 ; 三木, 賀雄 ; 柏木, 治美 ; 高橋, 義人 ; 中井, 絵美 ; 宮畑, 聡子

(Citation)

神戸大学国際コミュニケーションセンター論集, 4:51-71

(Issue Date)

2007

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81000967>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81000967>



メディア研究部門年次報告2007

「CALL・ハブ室・スタジオを中心とした外国語学習支援環境の整備」(Annual Report of the Multimedia Division 2007: Technological Support for the Class and Self-Access Studies)

加藤雅之¹、三木賀雄²、柏木治美³、高橋義人⁴、中井絵美⁵、宮畑聡子⁶

概観

メディア研究部門では、コンピュータ、ネットワーク、マルチメディア機器の日常的な管理運営を含む教育支援活動の他、次の4領域において研究活動を行っている。

- (1) CALL室・HUB室を取り入れた統合的語学学習体制の構築に関する教育研究・実践
- (2) 国内・海外におけるCALL及びE-learning政策の最新動向に関する調査研究
- (3) CALL及びインターネット等E-learningの有効的な活用環境の構築に関する研究実践
- (4) コンテンツ・メディア・評価診断・学習支援を含む総合的語学学習システムに関する調査研究及び研究開発

19年度は新たにCALL室(D417)の供用が開始され、また、念願であったデジタル・コンテンツ作成用マルチメディア・スタジオが整備されることとなった。こうしたハード面に加え、CALL室、ハブ室、スタジオの管理運営についても利用方法の案内、マニュアル作成、講習会開催などを通じて、より効率的な学習支援環境の整備を進めることができた。

以下、それぞれの施設の運営状況および、実践報告などを行うとともに、これからの学習支援のあり方について考察を行う。

1. CALL室の運営状況、CALL室利用説明会について(加藤、中井)
2. ハブ室の運営状況(加藤)
3. マルチメディア・スタジオの運営状況(宮畑)

¹ 神戸大学国際コミュニケーションセンター教授 masakato@kobe-u.ac.jp

² 神戸大学国際コミュニケーションセンター教授 ymiki@kobe-u.ac.jp

³ 神戸大学国際コミュニケーションセンター助教授 kasiwagi@kobe-u.ac.jp

⁴ 神戸大学国際コミュニケーションセンター技術補佐員 yoshito@solac.cla.kobe-u.ac.jp

⁵ 神戸大学国際コミュニケーションセンター研究支援推進員 nakai@solac.cla.kobe-u.ac.jp

⁶ 神戸大学国際コミュニケーションセンター技術補佐員 miyahata@solac.cla.kobe-u.ac.jp

4. 【授業実践】アドバンスト英語科目におけるマルチメディア・スタジオの活用 (柏木)
5. 【報告】Moodle ワークショップ「外国語教育と Moodle: 活用と実践」 (加藤)
6. 平成 20 年度以降の展望 (加藤)
7. CALL 室・ハブ室利用者統計 (中井)

1. CALL 室の運営状況 (加藤雅之・中井絵美)

(1) 新カリキュラムの導入に対応した教室環境の整備

平成 18 年度より、新カリキュラムが導入され、英語では多くの学部で従来のリーディング 4 単位、オーラル 2 単位から、どちらも 3 単位ずつを課すこととなった。それに伴い、リスニング、スピーキング、シャドーイング、プレゼンテーションなどの訓練を効率よく行うことのできる教室の必要性が飛躍的に増大した。さらに平成 20 年度からは月曜日と水曜日の週 2 日が英語にあてられることとなるため、過密度がより深刻になると思われる。これに対応するため、共通教育機構では普通教室における AV 機器の導入を進め、オーディオテープや CD、DVD、ビデオ再生機器が 16 教室に常置されている。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 限	7 8		15 10		
2 限	8 9		16 10		
3 限	7 8		17 9		
4 限	17 10		20 8		

*20 年度 オーラル科目の開講予定数(前期はオーラル I と III の合計、後期はオーラル II) 左が前期、右が後期

*下線部は、LL 教室 (K501, 502, 503, 601, 602) と CALL 室 (F201, 202, D417, B206A, B206B)、計 10 教室をあわせても対応できない箇所

(2) 授業による CALL 室利用状況

2005 前	2005 後	2006 前	2006 後	2007 前	2007 後	2008 前	2008 後
17	13	14	20	26	24	42(予)	37(予)

(3) ソフトウェア使用状況

Internet Navigware

CALL 室では Internet Navigware と、NetAcademy2 が用意され、どちらも学部生・院生の ID が新学期にすべて登録され、学生は学内 (VPN を利用して学外も) のどの Windows 端末からもアクセスできる。

下記は Internet Navigware の登録者数及び、各コースにアクセスした学生の延べ人数である。

	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度

Internet Navigware(登録者数)	18601	3837	3003	2772
TOEIC Test 470 点对策コース	391	236	464	1224
TOEIC Test 600 点对策コース	311	309	482	1359
TOEIC Test 730 点对策コース	328	323	213	1042
TOEIC Test 実力判定テスト	500	429	693	2083
TOEIC Test リスニング対策コース	401	144	185	830
e スタディ TOEIC(R)テスト 弱点診断付き リーディング 730 点	284	85	93	544
e スタディ TOEIC(R)テスト 弱点診断付き リスニング 730 点	183	80	80	751
コース参加者総計	2398	1606	2210	7833

NetAcademy2

2007 年度より、NetAcademy2 の運用が開始された。以下、履歴に基づく統計を以下に列挙する。

- ① 総登録者数 約 5600 名 (2006、2007 年度の学部、大学院入学生)
- ② 各コース、教材別の延べ受講数

技術英語<基礎>コース 基礎	108
技術英語<基礎>コース 語彙	73
技術英語<基礎>コース 中間/修了テスト	0
スーパースタンダードコース レベル診断テスト	826
スーパースタンダードコース リスニング	1375
スーパースタンダードコース リーディング	1483
スーパースタンダードコース TOEIC(R)テスト演習	1523
PowerWords コース プラス レベル診断テスト	1356
PowerWords コース プラス 英単語レベル1学習	1668
PowerWords コース プラス 英単語レベル2学習	1439
PowerWords コース プラス 英単語レベル3学習	1386
PowerWords コース プラス 英単語レベル4学習	2426
PowerWords コース プラス 英単語レベル5学習	2343
PowerWords コース プラス 英単語レベル6学習	8375
PowerWords コース プラス 英単語レベル7学習	135
PowerWords コース プラス 英単語レベル8学習	20
PowerWords コース プラス 英単語レベル9学習	9
PowerWords コース プラス 英単語レベル10学習	7
PowerWords コース プラス 英単語レベル11学習	6

PowerWords コース プラス 英単語レベル12学習	58
PowerWords コース プラス ブラックリスト学習	148
PowerWords コース プラス 英単語レベル1実力テスト	25
PowerWords コース プラス 英単語レベル2実力テスト	7
PowerWords コース プラス 英単語レベル3実力テスト	6
PowerWords コース プラス 英単語レベル4実力テスト	0
PowerWords コース プラス 英単語レベル5実力テスト	1
PowerWords コース プラス 英単語レベル6実力テスト	1
PowerWords コース プラス 英単語レベル7実力テスト	0
PowerWords コース プラス 英単語レベル8実力テスト	3
PowerWords コース プラス 基本 IT 用語学習	29
PowerWords コース プラス 略語学習	27
PowerWords コース プラス カタカナ語学習	26
PowerWords コース プラス 日本語:四字熟語学習	30
PowerWords コース プラス 日本語:一般基礎学習	47

③ PowerWords によるレベル別診断(1~10)の平均値(1356 名中)

PowerWords は 12000 語の英単語を Level 1~12 まで順を追って学習するソフトであり、大学受験前のレベルが 5 となっている。診断をうけた学生のレベルは **3.43** であった。(発達科学部 2 年生 40 名=2.9、経済学部 2 年生 76 名=3.5、経営学部 2 年生 32 名=3.5、理学部 2 年生 46 名=2.5、工学部 2 年生 87 名=2.9、国際文化学部 47 名=4、文学部 1 年生 74 名=3.7、発達科学部 1 年生 121 名=3.5、法学部 1 年生 104 名=3.7、経済学部 1 年生 135 名=3.5、経営学部 1 年生 102 名=3.7、理学部 1 年生 30 名=3.4、保健学科 1 年生 97 名=3.1、工学部 1 年生 191 名=2.9、農学部 1 年生 35 名=3.3、国際文化学部 1 年生 87 名=4.2)

Level 3 の単語例: confirm beneath establish throughout horn onto angle unit learning arch
entertain greet entertainment chin ease nickname tune probable gap somewhat

Level 4 の単語例: deceive founder persuade representative hop caution criticize dot guarantee
characteristic unclear southeast impressive stable external layer involved anchor urgent
surrounding

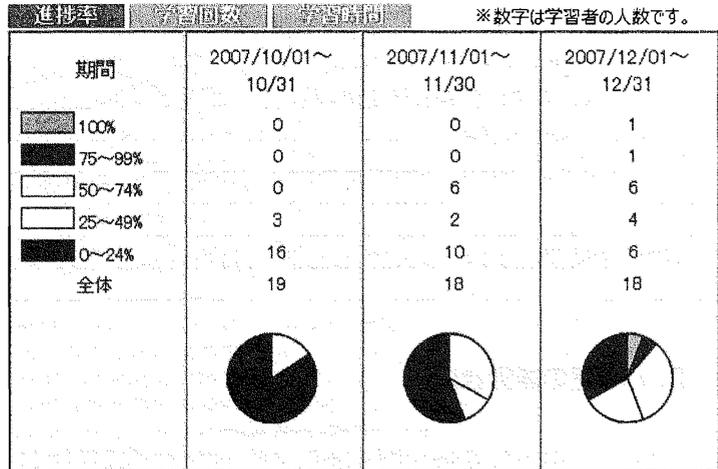
Level 7 の単語例: navigate ashore rationalize oddly implore madly reorganize virtually
recollect heartily differentiate ordinarily preside eastward bestow vaguely conform
decidedly lessen notwithstanding

④ スーパースタンダードコースによるレベル診断(1~8)

リーディング 461 名=3.0、リスニング 314 名=3.4

⑤ 自学自習教材としての役割

右は英語アドバンスクラスでの PowerWords、Level5 学習での統計を示している。このクラスでは CALL 室での自学自習を促進させるため、成績基準のうち 10%を進捗率によって算定した結果、多くの学生が昼休み等を用いて NetAcademy2 を利用する姿がみかけられた。履歴は全体の結果だけでなく、個人的に学習時間、回数、正答した問題、進捗率などが記録される。



(4) CALL 室利用説明会について (中井絵美)

CALL 室利用説明会について

前期と後期にそれぞれ CALL 室紹介に関する説明会を行いました。ゴールデン・ウィーク明けから案内を通知し、希望者には E-mail、あるいは用紙を記入してメールボックスに投函してもらいました。対象は1、2回生のリーディング I、IIあるいはオーラル I、II。同じ曜日時限での希望が複数であった場合は調整しました。

前期は当初、6月4日から説明会を開始する予定でしたが、はしかによる授業の全面休講により遅れ、6月14日から開始となりました。後期は前期に時間割の都合で参加できなかったクラスを対象に11月12日から開始しました。

参加講師は以下の通りです。

伊原紀子先生 西山史子先生 北村結花先生 土平紀子先生
 垣口由香先生 石塚裕子先生 小橋薫先生 ベー・シュウキー先生
 橋本由里先生 堤美佐子先生 柴田佳子先生 中村裕子先生
 田原志都可先生 室淳子先生 山内啓子先生 服部美樹先生
 原田寛子先生 芦田利恵子先生 (順序不同)

説明会の内容

1 CALL 室概要

2 コンピュータへのログインの仕方

3 CALL 室での自習学習の仕方

→SOLAC の HP を参照しながら自習開放時間、CALL 時間割、入室ノートの記入、貴重品管理、飲食禁止、データ保存方法、プリンター使用不可等

4 ソフト紹介

- ・I-Navi: ログイン方法、7つのドリル
- ・えいご漬け: 実際にいくつかやってみよう

- ・ドイツ語、フランス語の Tell Me More、中国語教材があることの紹介
- 5 NetAcademy2 を中心に
 - ・ログイン方法: 学籍番号使用、パスワードが変更できること
 - ・3つの教材のデモ
 - ・ ログインさせてレベル診断テストの<語彙テスト>あるいは<リスニングテスト>を受講させる

説明会の時間割は1コマの前半40分あるいは後半40分で行いました。

2. ハブ室の運営状況

ハブ(HUB)とは、車輪の中心にあり、スポークなどが集る部分であり、神戸大学の外国語学習の拠点を意味する。ハブの機能は以下の4点に要約される。

- ① ネイティブ TA とのコミュニケーション
- ② 常駐教員によるアドバイス・コンサルテーション
- ③ 学生同士のコミュニケーション・異文化交流
- ④ 留学、語学学習などの情報収集と発信

TA 編成および指導体制について

TA は掲示およびホームページを通じて、7月と1月に次学期の募集を行っている。

2003年度後期からの採用数の推移は以下の通りである。(表1参照。表のなかの()は実際に行ったセッション(コマ)数を表す。)

TA 雇用数									
	2003後	2004前	2004後	2005前	2005後	2006前	2006後	2007前	2007後
英語	1(2)	5	7	10	7	8	8	9	6
同(GP) ⁷					5	5	4	3	5
中国語	1	4	4	4	4	4	4	4	4
ドイツ語	1(2)	2(3)	3(3)	2	1	1	2		
仏語	2	1	3(2)	2	1	1	2	1	1
露語		1	1	1	1	1	1		1
韓国語				1	1	1	1	1	1
伊語									1
西語								1	1
総数	5(7)	14(15)	18(17)	20	20	21	22	19	20

毎セッション後、TA はセッションの内容や感想などを専用掲示板に書き込む。これはハブ利用者および教員も閲覧ことができ、情報の共有及び、セッション外でのコミュニケーションに役立っている。以下は2年半にわたり英語 TA を務めてくれたスリランカ出身の TA のメッセージである。

⁷ GP プログラム (<http://solac.cla.kobe-u.ac.jp/GP/index.html>) 参加学生とのコミュニケーションにかかわる TA として別途募集。

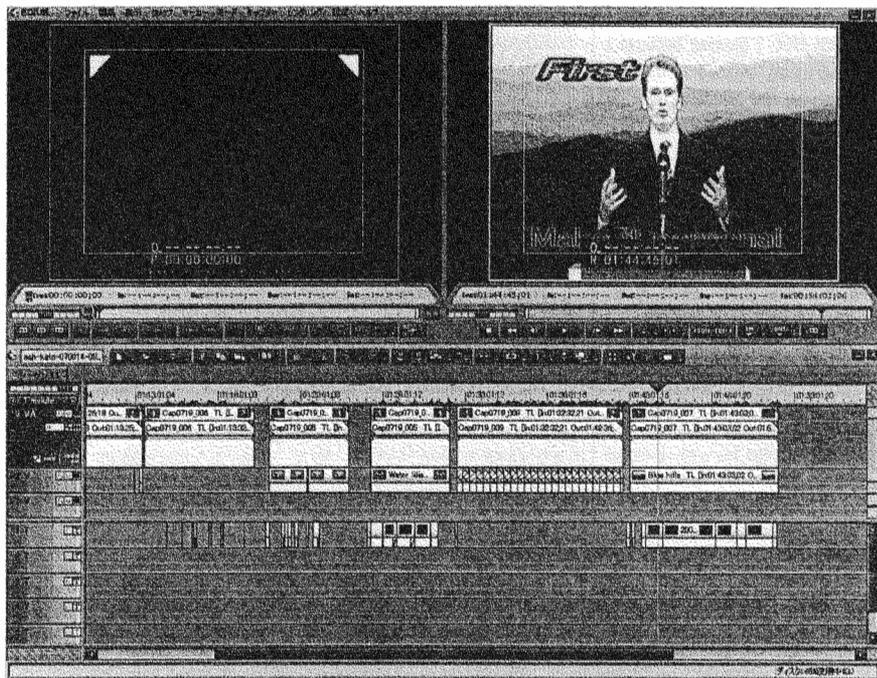
<p>No.171 24th was my last Hub ? session because I will be returning to my country in the end of March, finishing the studies here in Kobe. I had a grate time talking to MANY Japanese students who had a REAL interest in learning English. I am happy that they gradually developed their conversational skills when the time passed by. I hope MANY will use this facility in the time to come and break their fear to speak in English. Stop dreaming about "Native English" accents but think of English only a as communication tool in your hand. Thank you so much for your cooperation during the past two and a half years. Good bye.</p>	<div style="text-align: center;"> <p>HUB BBS</p> <p>SOLAC HOME 新規投稿 (new message) メッセージ一覧 (新着10件) 注意</p> <p>メッセージ一覧</p> </div> <p>no.176 To all TAs and students [kato] 2008/01/31 14:17 no.169 My last session [Alberto] 2008/01/22 15:45 no.175 Ciao! [kato] 2008/01/31 14:11 no.172 Happy holidays [Bishow & Simon] 2008/01/25 17:05 no.174 Thank you [kato] 2008/01/31 14:07 no.171 Good bye - Hub users :) [Nandita] 2008/01/25 14:46 no.173 Thank YOU, Nandita [kato] 2008/01/31 14:06 no.170 thanks [sunyi] 2008/01/23 15:22 no.168 Feedback Jan 22nd [Siyuan Wang] 2008/01/22 15:16 no.167 January 22 [Femi] 2008/01/22 13:31 no.166 jan 15th [carol] 2008/01/17 22:28 no.165 January 15 [Femi] 2008/01/15 17:12 no.164 Feedback Jan 15th [Siyuan Wang] 2008/01/15 15:27</p> <p>次の10件</p> <p style="text-align: right;">© 2003-2007 SOLAC, Kobe University, Japan All Rights Reserved</p>
--	---

3. マルチメディア・スタジオの運営状況（宮畑聡子）

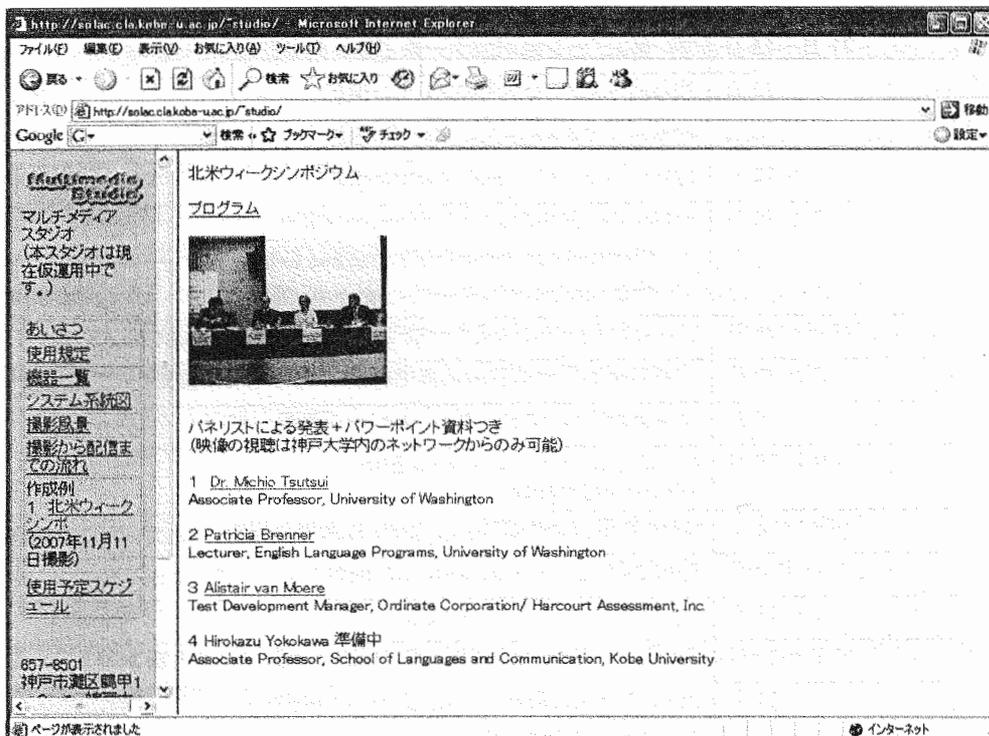
国際コミュニケーションセンターでは、マルチメディア環境を駆使した効果的な外国語教育を推進するため、マルチメディア・スタジオを設立し、2007年4月より稼動しています。スタジオでの主な活動は、英語プレゼンテーションの撮影と動画の編集作業です。

プレゼンテーションの撮影は、授業(アドバンスト英語、PEP1)やプレゼンテーションセミナー修了発表会で行いました。撮影はスタジオに限らず、授業や発表会の会場にも出張し、モデルプレゼンテーションの収集に努めています。(アドバンスト英語授業における詳細は「アドバンスト英語科目におけるマルチメディア・スタジオの活用」を参照)。また、セミナー講師の Ashley Rex 先生にも実演していただきました。

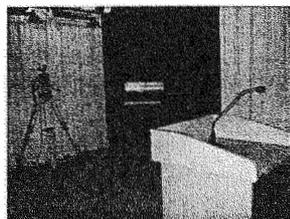
撮影した動画は、英語プレゼンテーション動画データベースや、来年度の授業参考資料用に編集しています。PEP1 受講生が行った最終プレゼンテーションのリハーサル撮影では、フィードバック教材として DVD 化し学生に配布しました。また Ashley Rex 先生のプレゼンテーションは、専用の動画編集ソフトウェア EDIUS を用い、クロマキー合成や字幕追加などの処理も行っています。



マルチメディア・スタジオホームページ(2007年9月開設)には、クロマキー合成、字幕を挿入した2バージョンと、Producerを用いてパワーポイントとスライドを同期したものの2バージョンと、2007年11月11日に開催された国際シンポジウム "Developing Second Language Oral Proficiency and its Evaluation/Testing"の講演も作成例として掲載しています。なお同ホームページでは、スタジオの設備・機器の一覧、撮影の予約等を行うことができますようになっています。



プレゼンテーションの撮影と編集作業以外の利用としては、夏季休業期間の兵庫県高等学校英語教員集中研修プログラムにおけるグループワークの発表をスタジオで撮影しています。またホームカミングデーでは、センター長の挨拶をスタジオからストリーミング配信し、会場の D417 教室でライブ中継を行うという試みも実施しました。



スタジオの主な使用状況

2007年4月1日	マルチメディア・スタジオ運用開始
5月1日	モデルプレゼンテーション撮影

8日	持ち込みカメラで学生のプレゼン撮影
21日～25日	プレゼンテーションセミナー修了発表会撮影(参加人数46人)
22日	持ち込みカメラで学生のプレゼン撮影
30日	持ち込みカメラで学生のプレゼン撮影
6月13日	持ち込みカメラで学生のプレゼン撮影
7月19日	Ashley Rex先生のプレゼンテーション撮影 ・ Chopsticks are better than knives and forks. ・ 効果的なプレゼンテーションのためのヒント
23日～26日	プレゼンテーションセミナー修了発表会撮影(参加人数46人)
7月30日	兵庫県高等学校英語教員集中研修プログラムでの撮影
9月	マルチメディア・スタジオホームページ開設
9月29日	ホームカミングデーにてライブ配信 ・センター長の挨拶
後期火曜3限	D418教室、K601教室にてPEP1授業風景撮影
11月6日	持ち込みカメラで学生のプレゼン撮影
11月11日	北米ウィークシンポジウム撮影
12日～16日	プレゼンテーションセミナー修了発表会撮影(参加人数34人)
12月	PEP1受講生の最終プレゼンリハーサル撮影 石川先生クラス(17人分)
17日～21日	プレゼンテーションセミナー修了発表会撮影(参加人数20人)
2008年1月15日	持ち込みカメラで学生のプレゼン撮影
1月	PEP1受講生の最終プレゼンリハーサル撮影 沖原先生クラス(16人分)
28日・29日	プレゼンテーションセミナー修了発表会撮影(参加人数5人)

4. 【授業実践】アドバンスト英語科目におけるマルチメディア・スタジオの活用(柏木治美)

国際コミュニケーションセンターでは、マルチメディア環境を活用した外国語教育を推進する一環として、2007(H19)年10月よりマルチメディア・スタジオがスタートした。⁸これにより授業の教材だけでなく、学生による発表の撮影や遠隔授業のための講義撮影といったことも可能になりつつある。このようなスタジオの利用については大げさに考えられてしまいがちであるが、ネイティブ・スピーカーの留学生に依頼して音声の録音を行ったり、モデルプレゼンテーションを撮影するなど、自身の授業に関わる身近なところから、まずは試しに使うことが重要だと考える。ここでは、今年度後期に開講したアドバンスト英語科目「Language Exchange」におけるマルチメディア・スタジオの活用例を振り返り、その可能性と課題点について報告する。

⁸ <http://solac.cla.kobe-u.ac.jp/~studio/>

4.1 アドバンスト英語「Language Exchange」におけるマルチメディア・スタジオの活用

アドバンスト英語科目「Language Exchange」における授業目標、特徴、授業の流れは以下の通りである。

授業目標

各自が設定したトピックについて、自身で調べるとともに、留学生から情報や彼らの意見を聴取し、これらの内容をまとめて、最終的にプレゼンテーションソフトを用いてプレゼンテーションを行う。この授業では、以下のような点を目標にしている。

- (1)英語の4技能を総合的に使用する機会を持つ
- (2)興味あるトピックについて、文献やインターネットを用いて自身で調べまとめることに慣れる
- (3)留学生との交流を通して、海外の状況や異なった視点からの意見・考えに触れる機会を持つ
- (4)プレゼンテーションや留学生との交流を通して、伝えたい内容をわかりやすく伝える、相手に尋ねたい内容について、整理して的確に質問することができる

特徴

- (1)留学生センターにおいて日本語「会話・聴解」授業を受講する留学生と、一部交流を行う。
- (2)学生は、各自が設定したトピックについて、学期最後にマルチメディア・スタジオでプレゼンテーションを行い、それを撮影する。
- (3)撮影したビデオ素材およびプレゼンファイル(学生作成)をもとに、図1のようなデジタルコンテンツ作品を、学生自らが作成し提出する。

授業の流れ

- (1)学期前半は、以下の2点を中心に授業を進める。
 - ・ある特定のトピックについてどのように発表をまとめていくかについて解説し、練習を行う。
 - ・留学生と交流する前に、その準備段階として、留学生TA(1人)に協力を得て、特定のトピックに対するグループディスカッションを行い、英語を聞き、英語で話すことに慣れる。
- (2)学期後半に、留学生センターの留学生と3回程度交流を行う。自己紹介を行った後、予め各自のトピックについて質問を用意しておき、そのトピックについて、彼らの国の状況や彼らの意見を聞く。併せて、留学生からの日本の事情等に対する質問に答える。
- (3)交流や自身で調べた内容をもとに、1人5分程度でプレゼンを行い、デジタルコンテンツ作品を作成する(図1)。プレゼンの際には、留学生TAがオーディエンスとなる。学生がトピックとして設定した主なものを表1に示す。プレゼンテーションソフトはPowerPointを、デジタルコンテンツの作成には、PowerPointに対応したProducerというソフトを用いる。

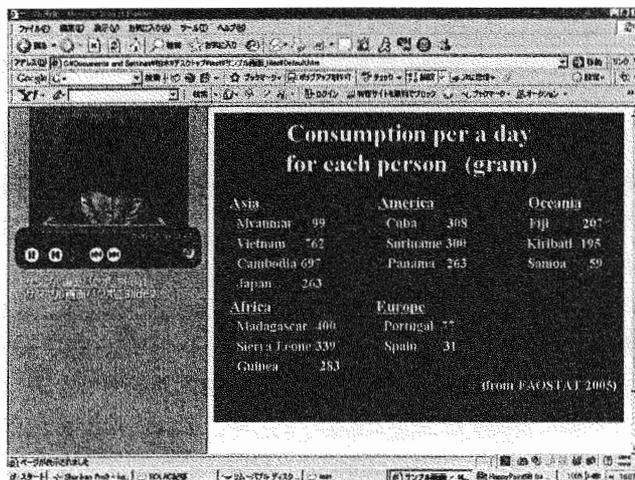


図1 producer を用いたデジタルコンテンツ例

表1 学生が設定した主なトピック例

学生が設定したトピック例	
• The World New Year's Day	• Fast food and Our life
• Housing Style in the World	• The Problem of Trash
• Worldwide Rice - Trivia about Rice -	• Nico Nico Doga
• Do Japanese College Students Waste their 4 Years?	
• McDonald's	• Contact Lenses in the World

4.2 授業におけるマルチメディア・スタジオの活用可能性と課題点

2007 年度後期、上述した形で、マルチメディア・スタジオを主にプレゼン撮影に利用した。振り返って挙げられる利点として、スタジオという環境、プレゼン用 PC や撮影機材が用意されていることにより、学生はプレゼンするという意識と緊張感を持つことができた。また、プレゼン時に留学生 TA がオーディエンスとなったことも、より良い環境作りにつながったと考える。

一方、今回の授業のようなやり方でスタジオを活用する場合、課題・注意点として、以下が挙げられる。

- 1 人 5 分程度のプレゼンを行うため、1 クラスの人数が 40 人を超えるクラスでは、日にちを分けて発表を行う等、利用上の工夫が必要となる。
- プレゼン当日、すみやかにプレゼンを始められるよう、プレゼンファイルは予め提出させておく。
- PowerPoint や Producer といったソフトの使い方に慣れていない学生もいることが予想される。そのような学生への対応のため、学期前半に、別の共通トピックを設け、必要となるソフトを用いたファイルやコンテンツを練習用に作成させる。さらにスタジオでの発表についても、この前半の時期に、共通トピックについて発表練習をさせておくことも必要と考える。
- 各自のプレゼンについて、英語表現やまとめ方などに対するアドバイスを与える時間を多めにとる。

これらから、スタジオを用いたプレゼン発表を授業に取り入れる際には、学期全体のスケジュールをある程度

詳細に決めることが重要である。実際には予定通りに進まない場合もあり、また筆者自身、授業内容について、さらに改善していかなければならない部分も多く残っているが、学生自らが交流や発表を行うことで、主体的に授業に参加し学ぶという意識を持つことにつながったと考える。

教師としての立場からは、一昨年のメディア研究部門報告⁹で加藤先生が指摘しておられた教師の役割が変化してきていることを実感した授業であった。スタジオやソフトといった学習環境を用意し、留学生というコミュニケーション相手を設定したことにより、学生の動機付けを促す。併せて、留学生との交流に向けて TA の協力を得、どのように発表をまとめていくかについて支援を行うといった、学生が必要になるであろうことに対するサポートを予め考えておくなどが、その例として挙げられる。外国語授業においても、今後、ますます facilitator、supporter、coordinator としての教師の役割が求められると考える。

5. 【報告】Moodle ワークショップ「外国語教育と Moodle: 活用と実践」(加藤雅之)

メディア研究部門の企画により、下記ワークショップを2月7日に開催した。

「外国語教育と Moodle: 活用と実践」

WebCT、Blackboard などとともに、最も普及しているコース管理ソフトのひとつオープンソース「Moodle」の専門家の先生方によるワークショップを開催いたします。今回は実際に外国語の授業で Moodle を活用されているお二人の先生のご報告と、日本で早くから Moodle の導入を手掛けてきたエキスパート、『Moodle 入門』(海文堂)の共著者、井上博樹講師のお話を伺います。「そもそも Moodle とは何?」から始まり、「そうかこうやって授業で使ったらいいのか」を経て「意外に簡単、私にもできそう」までたどりついていただけるよう、メニューを用意しました。初心者の方から、Moodle 使いの方までどうぞ奮ってご参加ください。

日時 2008年2月7日(木)

場所 神戸大学国際文化学部キャンパス D棟417号室

- 14:20 開会挨拶 三木賀雄(国際コミュニケーションセンター長)
- 14:30~15:15 実践報告1 山内真理先生(神戸海星女子学院大学)
- 15:15~16:00 実践報告2 ティム・グリア先生(国際コミュニケーションセンター)
- 16:00~16:10 休憩
- 16:10-17:40 講演 井上博樹講師(eエデュケーション総合研究所代表)
- 17:45 閉会挨拶 加藤雅之(国際コミュニケーション副センター長)

⁹加藤雅之、三木賀雄、柏木治美、高橋義人(2005)「CALL・HUB の導入による語学学習環境の整備」、神戸大学国際コミュニケーションセンター論集、No.2、pp.107-128



実践報告1では、Moodle を授業で使い始めて 2 年半の山内先生より、Moodle の機能と活用例を中心に実践的な報告がなされた。授業での個別学習と授業外での補習において、学習素材の配信や、履歴・評価管理機能、およびコミュニケーション関連活動の効率的な使い方について実際の例をあげながらの説明があった。小テストやクイズなどが自動的に集計される Grades の使い方については、使いやすさを実感させてくれた。また、Glossary

機能では単語や用語の説明が自動的にリンクされる様子が再現され、Moodle ならではの学習環境をかいま見ることができた。さらに、コース作成の際、HTML タグを埋め込むことでポップアップヒントや音声ファイルを柔軟に表示するといった上級者向けの説明も有益であった。こうしたことが特にプログラム言語の背景知識を必要とせずに、いきなり作りながら学んでいけることがわかり、聞いている方もこれなら使ってみようかという気になった元気のでる発表であった。

実践報告2ではグリア先生が、実際の授業、英語リーディング II、III で使用している Moodle のページ(右図参照)を素材に、掲示板、リンクページ、小テスト、投票などのリソースやアクティビティの実例紹介があった。Moodle を活用することで学生同士が互いの文章を見たり、本に対する感想を交換しあったりといった協同学習(Collaborative Learning)が自然な形で進行している様子がリアルタイムで実感することができた。

また、reading cycles というタスクでは、互いに summarizer, connector, word master, passage person, culture controller などの役割をあてがい英語のディスカッションがきわめて多产的にすすめられる様子がよくわかり印象深く理解することができた。

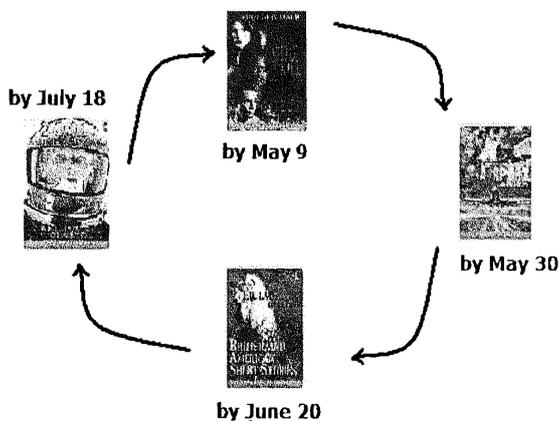
井上講師の発表では Moodle とは何か? に始まり、IT の教育利用小史、日本での導

入状況、WEB2.0 のインパクトといった背景についての興味深い分析が語られるとともに、米国、韓国など WEB 先進国における CMS(Course Management System)の普及速度に鑑み、日本でも今後同様の進展を見ることになるという指摘があった。現在、韓国の嶺南大学の院生でもある氏の実体験に基づく、IT 利用の状況はもはや Web 環境なしでは大学生活を送ることができないほどである様がユーモアを交えて語られ、印象深く聞き入る参加者の姿が目についた。

後半、30 分ぐらいにわたり、ハンズオンでの Moodle 体験が行われた。各参加者ごとに用意したデモコースを利用して、それぞれ自分のコースのタイトルを変えたり、設定をほどこしたり、ファイルをアップロードするやり方を学ぶことができた。(下図参照)

Topic outline

Resources



Useful Sites

- 📺 BBC world service
- 📰 Online news stories for English learners
- 🎧 Listening activities at Ello
- 🔧 Helpful tools
- ✉️ Yahoo! mail
- 📖 Vocabulary Profiler

Moodle入門のコースへようこそ！

☞ ニュースフォーラム

今日は、皆さんがMoodleを自分の授業で活用するプランを考えるヒントに



02/5 - 02/ 11

Moodleの概要について紹介します。

☞ 本日の資料

？ Moodleの使用経験についての質問(Moodle Experience)

？ OS(オペレーティングシステム)

？ Cell Phone(ケータイ)

☞ 講義ノート

02/ 12 - 02/ 18

Moodleを体験しよう！

1. フロントページ

本ワークショップは、Moodle 初体験の方から、すでに Moodle を何らかの形で使われており、さらにブラッシュアップしたい方まで 20 名近くの参加者それぞれのニーズに応じて何かを学ぶことのできるよい機会であったと思う。本研究部門でも現在試験的に Moodle を運用しており(<http://solac.cla.kobe-u.ac.jp/moodle>)、2008 年度もさらにこうしたワークショップやシンポジウム、講習会などを通じて、学習の機会を提供できればと考えている。一度使ってみたい、試験的にコースを作ってみたいと考えている方はぜひ連絡してください。

6. 平成 20 年度以降の展望（加藤雅之）

(1) CALL 室(B206A、B206B)の整備。(19 年度特別研究経費)

平成 20 年 2 月末に 2 室が整備され、CALL 室は 5 室での運営を行うことになる。今回の整備で導入される CALL システム「CaLabo EX」¹⁰では、動画学習ツールを用いて、教材をリアルタイムに配信しながら学生パソコンに録画することで、LL 教室で音声を録音して練習するような活動が容易に可能になる。また、ペアやランダムペアを組んでのチャットやグループ学習も効率よく行うことができる。これまで使っていたテープや

¹⁰ <http://www.chieru.co.jp/product/one-campus/c-cx/index.html>

CDなどをデジタル化し、教材をUSBメモリなどで自宅に持ち帰り学習することも可能となる。なお、本経費による継続整備として20年度中にさらに1室が追加される予定である。

(2) ソフトウェア「SpeaK!」¹¹の導入

音声合成技術による英文読み上げおよび、発音評価システムにより、発音に特化した音声練習を行うことができる(20年3月納入予定)。このソフトでは、基本的な発音練習に加えて、利用者自身が独自に入力したテキストデータを読み上げる機能も備わっている。これを利用して、ニュース原稿などを用いてリピーティング練習を行うことができる。また、プレゼン発表用に学生自身が作成した英文を用いて、本番の発表前にこのソフトを用いた発表練習を行うといったことも考えられる。リーディングやリスニングに比べて練習の機会が少なくなりがちなスピーキング練習を補う可能性を持っている。

(3) Moodle¹²導入による Computer-supported collaborative learning (CSCL)の推進

Moodleは、現在、37836の開設サイト、167万の提供コース、1600万ユーザー(196カ国、70言語)の利用者を誇るコース・マネージメント・ソフトウェア(CMS)である。このCMSを利用することにより、シラバスの提示といった静的なコンテンツだけでなく、宿題の配布、WEB上での資料提示、BBSの開設、チャットルームの活用など、オンライン・コミュニティを作り上げることで、より効率的なオンライン上での協同学習(Collaborative Learning, CL)が可能になる。

日新月歩の技術革新の時代にあって、外国語学習環境はさまざまなテクノロジーの恩恵を受けてきた。もはや「ネイティブ」スピーカーの音声(肉声であれCDであれ)を聞くことが教室での重要な活動であると主張することは控えめに言って irrelevant になっている。クリック一つで様々な音源や映像にアクセスできる環境が教室の外に構築されてしまった現在、学生が教室に求めるものは自学自習では達成できない、パートナーとの協同作業を通じての学習ではないだろうか。

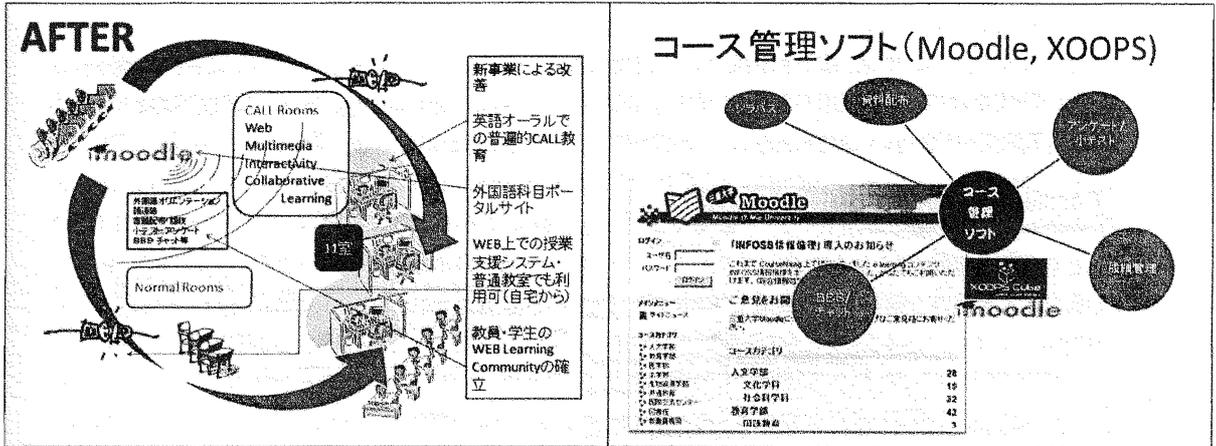
CLの教育的前提には、知識は我々の外部ではなく、社会の中で、他人とのかかわりの中で獲得されていくというヴィゴツキー(Vygotsky)的の理解がある。「協同学習(CL)は学生と教師が知を作り上げる共同作業の中で立ち上がってくる…。この教育理論の中心概念には人々は協力して意味を作りだし、その創造過程によって成長し、啓発されるという前提がある。」¹³ それは客観的にどこかにあるものではなく、協同作業を通じて立ち現れてくる何かなのである。

CALL室の量的整備が一段落しつつある現在、われわれはそこで行われるべき授業の性質についても何らかの見通しをつける時期に来ていると思われる。4章で報告された柏木先生の Language Exchange はこうしたCLの可能性の一つを見せてくれている。

¹¹ <http://www.lighthouse-inc.com/speak.html>

¹² <http://moodle.org/>

¹³ Elizabeth F. Barkley, et al., Collaborative Learning Techniques (San Francisco: John Wiley & Sons, 2005), 6.



現在、SOLAC の Web サイト¹⁴で Moodle の試験運用が行われ、いくつかのコースがすでに稼働している。

<p>Weekly outline</p> <p>本コースでは、文楽の成立と発展について述べるとともに、義太夫、三味線、人形それぞれの役割ごとに、代表的演者を選んで解説する。また、三大巨匠とされる『辰右衛門忠臣蔵』、『義経千本桜』、『菅原伝馬手船場』についてはそれぞれ一講義を当てて詳述する。</p> <p>☞ ニュースフォーラム</p> <p>30 December - 5 January</p> <p>□</p> <p>人形浄瑠璃の歴史(1)</p> <p>竹本義太夫より「義太夫節」の創始から、近松門左衛門とのコラボレーションを経て、竹本座・豊竹座の隆盛から、閉座、榎村文楽軒の芝居小屋開設にいたるまで、人形浄瑠璃の歴史を解説する。</p> <p>ラベルが追加された</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ テキストページ ☞ ウェブページ ☞ 資料をアップロード(画像ファイル) ☞ 資料をアップロード(Word, Excelファイル) ☞ リソースの追加(ウェブページ) ☞ 資料をアップロード(Word, Excelファイル) Excel文書 	<p>21 December - 27 December</p> <p>In today's class we will:</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ read about the recent train accident in Amagasaki ○ search for facts about a fire engine ○ learn about volunteer fire services in Australia ○ discover how a fire engine works ○ read about the history of fire brigades <ul style="list-style-type: none"> ☞ Accident in Amagasaki ☞ Davis Engine 31 ☞ Compare with other fire trucks ☞ Compare the trucks ☞ How a fire engine works ☑ Fire Engine Quiz ☞ The origin of the fire engine ☞ Accident in Amagasaki
<p>デモコース</p>	<p>Greer 先生のコース</p>

Moodle は特別なプログラムの知識がなくても、自由に必要なモジュールを組み合わせてコースを作成することができるソフトであるが、20 年 2 月のワークショップをはじめ、さまざまな形で使用方法についての情報を提供することでより多くの方の利用促進を図る予定である。

(4) より効率的なサービスの提供

20 年度以降、CALL 室およびデジタル・コンテンツの増大および多様化に対応するため、より効率的なサービスの提供について、整備を行っていく。主な分野としては以下の 3 つが想定される。

¹⁴ <http://solac.cla.kobe-u.ac.jp/moodle/>

A) 授業および授業以外での CALL 室の活用

現行のカリキュラムでは、曜日時限によって利用状況にバラツキがみられるとともに、外国語が開講されていない時間帯はほとんど利用がされていない。Yale 大学の Center for Language Study では以下のような Web による予約受付¹⁵を行い、さまざまなニーズに対応していることがうかがわれる。

Facilities Scheduling

Room Scheduling Request

Class/event will be held every week on

 Class/event will be held one time only on (date in format MM/DD/YYYY).

Reservation Type
 Mark a circle:

What room would you like to reserve?
 Choose from the list or leave the current answer and describe needs in the comments.

Class or Group
 Type the course number/name or name of the group using the room.

Approximate number of people attending class/event:

Name of Person Responsible
 (Usually instructor's name.)

E-mail Address of Contact Person
 Or other contact info if necessary.

Time Room is Needed
 Include preparation or clean-up time if needed. From: To:

Comments
 Include any needs such as special equipment, locks for non-Yale guests, presentation needs, or charging instructions (if required) in this section.

By submitting this form you agree to the room use and scheduling policies set forth by the Center for Language Study.

また、Harvard 大学の Language Resource Center も同様のサービスを提供している。施設の効率的な運営方法について、国内外の大学における先進的取り組みを取り入れていきたいと考える。¹⁶

B) 講習会、ワークショップ、サポート体制

CALL 室の使用法、Moodle の活用方法などについて、積極的に広報、支援を行っていく。また、CALL 室での授業が円滑に進むように、不具合や事故に即座に対応できるような人的、設備的サポート体制を整えていく。

C) デジタル・コンテンツデータベースの整備

現代 GP プロジェクトにおけるプレゼンテーション・データベースの構築で培ったノウハウを生かし、デジタル・コンテンツ教材を開発するとともに、著作権処理を行ったアナログデータをデジタル化しデータベースとして蓄積する。

7. CALL 室・ハブ室利用者状況（中井絵美）

CALL 室(F201・F202・D417)の活動状況

利用期間は前期 4 月 10 日～8 月 7 日、後期 9 月 25 日～12 月 21 日と冬季休業をはさんで 1 月 8 日～2 月 22 日です。授業の枠は、前期は週 26 時間(F201:8 時間、F202:9 時間、D417:9 時間)、後期は週 24 時

¹⁵ <http://jakarta.cls.yale.edu:591/roomschedule/FMPro?-db=weekly.fp3&-format=request.htm&-view>

¹⁶ この 2 大学については加藤が 2008 年 3 月に訪問し、外国語教育支援のあり方について意見を交換する予定である。

間(F201:8時間、F202:5時間、D417:11時間)です。自習時間は10:30～17:30でF201かF202どちらか1室を開放し、D417に関しては授業のみの使用としました。テスト期間、終了後や休業期間のような授業がないときはF202を開放しています。

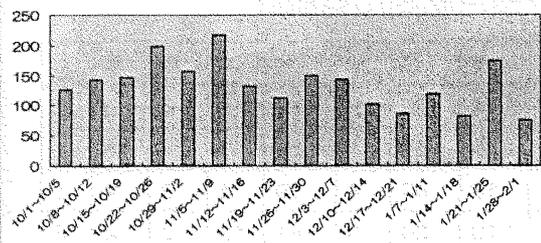
入室時に記入した利用簿を元にとった統計(表1、グラフ1-4)は1月31日現在のものです。4-5月に掛けては利用者が伸びています。6月の利用は伸び悩みました。通常ならば特別な行事や休みもないのですが、6月1日～12日のはしかの影響で大学が全面休講となったことが影響です。7月になるとテスト勉強に来る学生が多くなりました。また、今年は夏季休業の開始が遅くなったので7月は月末までテスト勉強に来る学生が多かったです。後期は授業が始まった直後から多くの学生が来しました。前期から引き続き利用する者に加え、後期からはじめて来る者も多くいました。前期だけでなく後期にも説明会をしたこともあって、11月の利用も多かったです。

学部別の利用を見ると、工学部の利用が全体の約4分の1を占め、経済学部、国際文化学部と続いています。

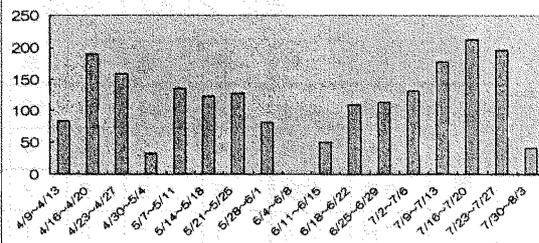
表1 2007年度 CALL室月間利用者統計

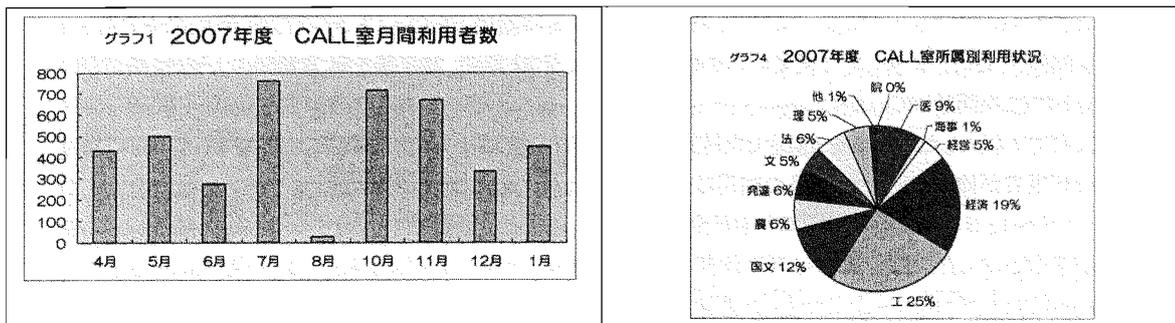
		計	院	医	海	営	済	工	国	農	莞	文	法	理	他
前期	4月	432	0	38	5	20	82	111	50	25	27	20	26	22	6
	5月	499	0	12	8	40	118	118	73	34	39	9	19	15	14
	6月	273	0	4	11	19	44	62	37	12	42	8	4	22	8
	7月	758	1	4	14	118	95	165	95	14	167	32	12	34	7
	8月	28	0	0	2	4	7	0	1	3	10	0	0	1	0
後期	10月	714	2	7	12	43	111	100	244	14	122	23	13	13	10
	11月	669	0	12	22	42	136	90	216	16	62	21	33	10	9
	12月	330	0	7	9	29	53	52	84	5	46	7	21	6	11
	1月	448	0	4	21	41	120	34	104	9	65	20	14	9	7
合計		4151	3	88	104	356	766	732	904	132	580	140	142	132	72

グラフ3 2007年度 CALL室週間利用者数(後期)



グラフ2 2007年度 CALL室週間利用者数(前期)





ハブ室の活動状況

ハブ室は D410、D411 を 11:10 から 17:30 まで開室しています。前期 4 月 16 日から 7 月 13 日まで、後期 10 月 15 日から 12 月 21 日と冬季休業をはさんで 1 月 8 日から 1 月 25 日まで開放しました。ネイティブのティーチング・アシスタント(TA)は、前期は 11 時 20 分から 2 時間交代で常駐してもらっていました。ただ、TA の中には前後の授業の有無によって教室移動が時間までにできない者や時間よりも早めに切り上げる者も数名いたため、後期からは開始前と終了後に 20 分ずつ準備時間を設け、1 時間 20 分の常駐となりました。ネイティブの言語は英語、フランス語、中国語、スペイン語、イタリア語、韓国語、ロシア語です。TA をはじめとする留学生と日本人学生の外国語での交流の場としています。

ハブ室も CALL 室と同様に利用簿に名前を書くように促してはいますが、利用に来る学生によっては補佐員や待機の教員に言われるまでそのことを知らずに利用をしている者も多いので以下の統計(表 2、グラフ 5-8)にある人数よりも実際の利用者はもう少し多いと思われます。

月別で見ると前期は 4 月、5 月、後期は 11 月と、ともに学期初めごろに多く利用されています。前期は TA の常駐スケジュールが早くに決まっていたこともあって開始直後から多くの学生が来ていました。6 月から利用者が減っていますが、これは CALL 室と同様、大学が休講になったためです。後期は TA の人材がなかなか思うように集まらなかったことで各時間の TA の開始時期にばらつきがあったため、10 月は割と少なめです。学部別では国際文化学部が一番多く、次いで発達科学部、医学部となっています。

表2 2007年度 ハブ室月間利用者統計

		計	院	医	海	営	済	工	国	農	発	文	法	理	他
前期	4月	226	2	31	6	16	24	14	56	22	19	18	8	9	1
	5月	318	5	12	4	4	38	39	87	43	53	7	7	18	1
	6月	122	6	2	5	3	14	18	40	4	19	4	2	4	1
	7月	114	4	1	2	1	4	19	20	3	41	12	2	2	3
後期	10月	178	1	55	0	14	18	24	33	4	15	8	1	3	2
	11月	215	3	69	7	17	16	13	33	2	44	1	5	3	2

	12月	131	1	25	0	10	2	14	39	6	21	1	5	3	4
	1月	133	4	15	0	12	8	17	27	1	33	4	7	2	3
	合計	1437	26	210	24	77	124	158	335	85	245	55	37	44	17

